

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立

深堀小学校

学級数 14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

学び合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

- 1 取組について  
昨年度学習指導要領が改訂され、「基礎的・基本的な知識や技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」等が示され、本校においても確かな学力の向上に向けて取組を始めた。とりわけ、言語活動の充実に重点をおくとともに、昨年度見直しを図った重点教育目標「学び合う子」の育成に向けて各教科における系統性を明確にしたり授業形態等について研究を進めたりしている。
- 2 取組の位置付け  
教務・研究部が中心となり、年間指導計画の見直しを図ったり、校内研究の充実に図ったりしている。
- 3 取組の内容と方法  
(1) 昨年度学習指導要領が改訂されたが、移行期間中に実施した年間指導計画を基に各教科における系統性と重点指導事項を明確にし、単元において時数に軽重をつけて扱う取組を行った。今年度も実施しながら年度末に見直しを図る取組を行っている。  
(2) 「学び合う子」実現のために校内研究を充実させ、授業公開に向けてプレ授業の公開を多数行いお互いに授業を見合えるようにしている。また、研修を深めるために「言語活動の充実」とは、と言う観点で共通理解を図り、各教科における「言語活動の充実」を図る学習指導案を作成し、2学期に交流を行う。

## 取組の成果と課題等

- 取組の成果
  - ・ 年間指導計画の見直し  
(成果) → 年間を通して取り組むことで、系統や重点的な指導内容、軽重についての意識が高まった。特に国語科において単元ごとの重点的な指導内容について理解が深まった。また、それを受けて教育課程の編成の参考となった。
  - ・ 校内研究の充実  
(成果) → 「学び合う子」を重点教育目標に校内研究を推進した。学び合う活動を通して、思考力・判断力・表現力等を高める授業改善を行った。公開学級だけではなく、たくさんのプレ授業を行うことで、基礎基本の大切さを改めて実感することができたとともに子どもの力の高まりを感じた。
  - ・ 言語活動の充実についての共通理解  
(成果) → 各先生方の専門性を生かし、一人一教科で各教科における「言語活動の充実」についてレポートを作成し交流することで、教科ごとの「言語活動」の違いに気づいたり「言語活動」についての理解を深めたりすることができた。また、交流したことを基に授業改善へとつながった。
- 教育課程検証の方法
  - ・ 校内における学校評価・保護者へ向けての「学校の取り組みに対する保護者アンケート」を実施し、現在集計中である。
  - ・ 集計の際には、わかりやすくグラフとして表す予定であり、集計結果は保護者へ学校通信を使って公表する。また、記述等についても熟考し、次年度への教育課程編成へとつなげる。